

パワーチャージの一週間

静岡県 浜松市立積志小学校 四年

清水心遙

私のお父さんはりようしで、遠い海に漁に行く。一ヶ月以上会えなくて、帰ってきてでも会えるのはたった一週間。でも、その一週間は家族を思いっきり楽しませてくれる。

お父さんは、私が学校に行く時まじから顔を出し、見えなくなるまで手をふってくれる。私もお父さんが見えなくなるまで手をふる。

学校から帰ると、お父さんがつりのじゅんびをしていた。

「夜ぐりに行ってみるか。」

夜につりに行くなんてワクワクした。お母さんは、

「明日も学校なのに。」

と言いながら、夜ごはんをおべん当箱につめてくれた。もつと楽しみにになった。車の中でお父さんは、とつておきの道具を見せてくれた。魚の集まる緑色のライトだった。海に着いてライトを海中に入れると魚が集まってきた。一ぴきつれるたびに、「うまいな。」よっしゃ。「やるね。」とほめてくれる。えさをつけるのも、魚をはりから外すのもお父さんがやってくれた。私は、魚が食いついたらリールをまくだけ。妹も同じだった。お父さんは、大いそがしだった。アジが三十七ひきつれた。お父さんと緑のライトのおかげだと思った。それでもお父さんは私たちのことをたくさんほめてくれた。いっぱいつれてとても楽しかった。次の日の夜ごはんは、アジのおさしみとアジフライ。お父さんがさばいてくれて、お母さんがあげ

てくれた。最高においしかった。

その次の日は、休みの日で川遊びにつれて行ってくれた。夏になったら川遊びに行こうと約束していた。お父さんは、川でも私たちとおもいっきり遊んでくれる。たくさんふざけて面白くて楽しい。お父さんはペットボトルで作ったワナをしかけたり、タープをはったり、バーベキューのじゅんびもしている。お父さんは今日も大いそがし。汗をかきながら時どき川や森や空をながめて、「最高だな。」と言った。私も、家族みんな川に行けて、最高に楽しかった。

あつという間にお父さんと一週間は終わってしまう。もつともつとお父さんと遊びたかった。また長い一ヶ月が始まる。お父さんはえがおでバイバイするけど、私はいつもさみしくて泣いてしまう。でも、お父さんは、

「がんばって仕事をしてくるから、また楽しい事しよう。」と言ってくれるから、私もがんばろうと思う。お父さんとすごした一週間が、私の、パワーになる。お父さんありがとう。

お父さんが出港した次の日、私はいつも通り、学校へ行った。家を出て、少し歩いて、家のまどを見た。お母さんが手をつけていた。

お母さんが、いつもそばにいてくれるから、毎日幸せにすごせる。お母さんありがとう。お父さん、お母さん、本当にありがとう。